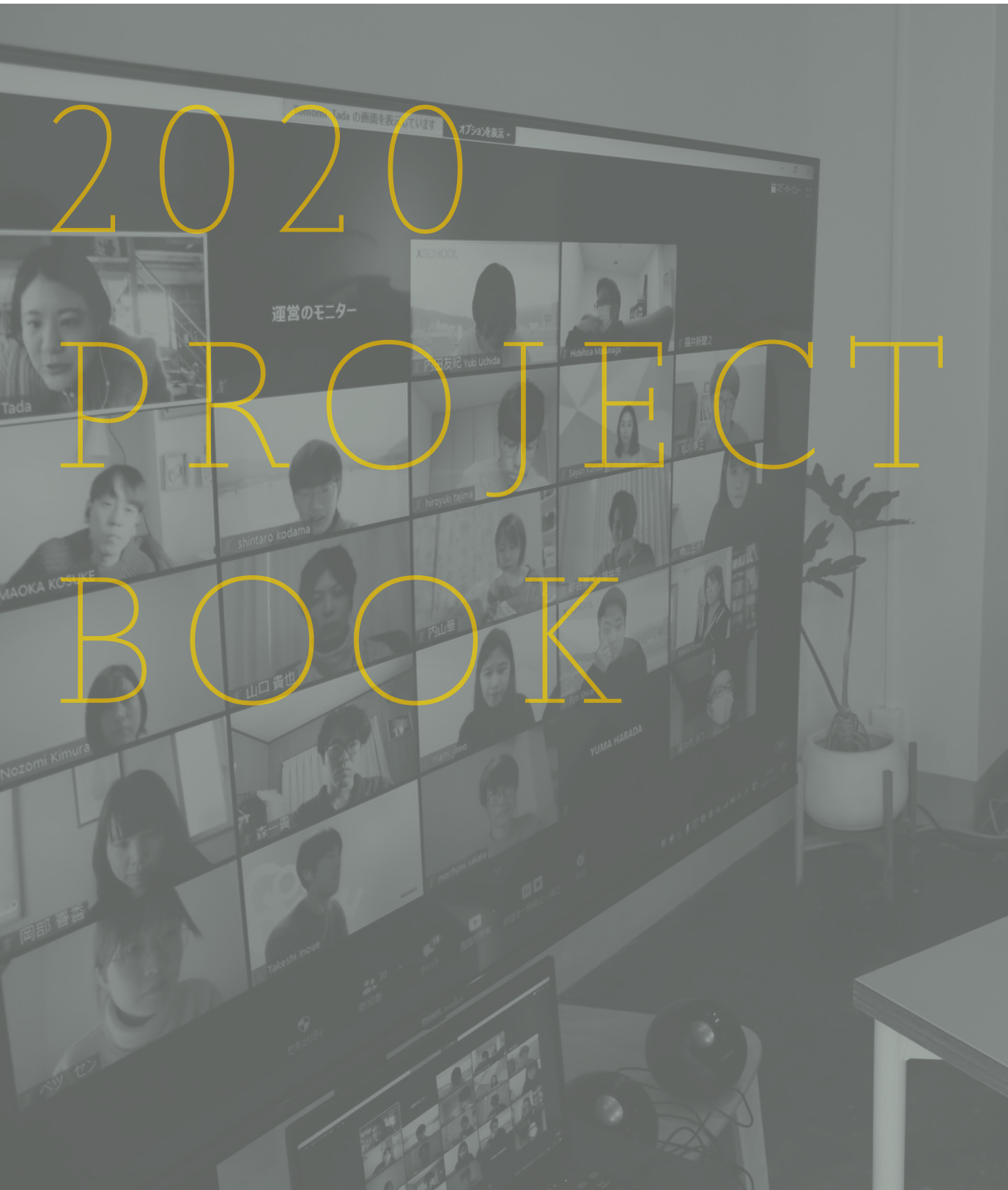


未来につなぐふくい 魅える化プロジェクト

make.fUKUI

<http://makef.jp/>



make.fUKUI

福井でつくろう、 福井をつくろう

未来につなぐ ふくい魅える化プロジェクトは、「福井でつくろう、福井をつくろう」をテーマに、まちの魅力や価値の可視化を通して、地域を越えた“新たな人の流れの創出”を目指し、2016年度に始動しました。初年度より継続する事業創造プログラム・XSCHOOLをはじめ、これまで、中小企業の採用力強化、学生アイデアソン、地元中高生の郷土愛醸成、お試し居住企画、地元企業と外部人材との探究活動・XSTUDIO、多様な価値観を共有する短期スクール・XSEMIなど、年度ごとにプログラムを再編しながら展開。域内外の“創造人材が出会い混ざり合う”きっかけをつくってきました。2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受けてプログラムをオンライン環境へ移行しましたが、これまでのプログラム参加者・企業が加わることで年度を越えた関係性を創出。リモートツールを駆使しながら新形態のワークショップを試み続け、遠隔コミュニケーションの新たな可能性も見出しました。また運営チームの官民連携プラットフォーム化を目指すXSTANDもリアルな場所としてスタートしています。

2020年度の取り組み

XSCHOOL



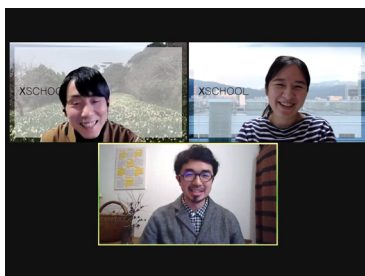
PROJECT 1

次代のデザイナーのための 小さな教室

福井の文化風土や産業を探索し、社会の動きを洞察しながら、未来に問いを投げかけるプロジェクトを創出するプログラムです。5期目となる2020年度のテーマは、「わかるから、わからない🤔—医療とわたしのほぐし方—」。全国から公募した多様な専門性をもつ個人メンバーと、3社の地元パートナー企業のメンバーが、それぞれが考えたい「問い」を立て、80日間にわたって研究活動を展開しました。新型コロナウイルス感染症の影響で、活動はオンライン環境が中心でしたが、それぞれ複数のデジタルツールを駆使して、調査や議論を実践。最終的には、チームと個人の活動を横断しながら11のプレゼン動画を発表。オンラインで開催したカンファレンスには、100名超の視聴者が集い、これまで同様熱気溢れる場が生まれました。

実施期間：2020年12月 - 2021年3月

参加者：16名(個人メンバー10人、パートナー企業6人)
パートナー企業：日華化学株式会社、株式会社松川レビヤン、オレンジホームケアクリニック



探索領域

わかるから、わからない 😞
— 医療とわたしのほぐし方 —

効率化により分業された仕事、公と私、医療や介護、自然環境などなど — わけることで、物事の本質が捉えづらくなっている現代。わかるから、わかる。だけど、もしかしたら「わからないから、わかる」「わからないから、おもしろい」こともあるかもしれません。専門性に分断されがちなテーマを個人に引き寄せ、解きほぐし、新たなプロジェクトや誰かの参照になりうる問いのプロセスを生み出します。

パートナー企業



日華化学株式会社

1941年創立。界面科学をコア技術とし、国内シェアナンバーワンの繊維加工用薬剤をはじめ、金属加工、紙・パルプ、クリーニングの各業界向け薬剤、また毛髪科学技術を応用したヘアカラー、ヘアケア化粧品など多岐にわたる分野で研究開発・製造・販売を手がける。福井を代表するオープンイノベーションカンパニー。

<https://www.nicca.co.jp>



株式会社松川レピヤン

日本最大の細巾織物産地である福井県坂井市で創業95年を迎える細幅織物ファクトリー。独自の超高密度織技術は、微細なデザインを織物で再現することが可能で、大手アパレルブランドのブランドネームをはじめ、製品管理ラベル用のQRコード(特許)やバーコードなどに採用されている。

<https://rapyarn.jp/>



オレンジホームケアクリニック

2011年に誕生した福井県初の複数医師による在宅医療専門クリニック。医療にとどまらず多職種・異業種とも積極的に連携した「まちづくり」に関わり、グループ全体では医療ケアが必要な子どもたちとの活動拠点「オレンジキッズケアラボ」など、既存の制度や枠組みを超えたプロジェクトを次々と展開している。

<https://www.orangeclinic.jp/>

PROCESS

2020年12月から4回にわたりオンラインでワークショップを実施。複数の情報共有ツールを活用し、議論の密度を高めました。



アドバイザー 紅谷浩之 (医師/オレンジホームケアクリニック代表) 磯野真穂 (人類学者)

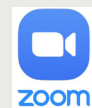
プログラムディレクター 坂田守史 (ディレクター・プランナー/株式会社デザインスタジオ・ピネン)

原田祐馬 (デザイナー/UMA/design farm 代表) 多田智美 (編集者/MUESUM 代表)

内田友紀 (都市デザイナー/株式会社リ・パブリックシニアディレクター)

白井瞭 (トランスローカルマガジン「MOMENT」編集長/株式会社リ・パブリックディレクター)

活用ツール例





01

「隠す」と「装う」
— 開くことの間にあるコミュニケーション

病気と向き合う体験から「隠す」「装う」という言葉の間に健やかな生活を営むヒントがあるのではないかと問うところから展覧会を着想。「隠す」「装う」をテーマに、福井の産業リソースも活用した展示・プロダクトを計画しています。
山岡宏輔(大成紙器製作所ブランドマネージャー)[大阪府出身・在住]



07

孤独とはなにか

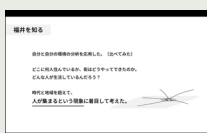
「一人」や「孤独」というキーワードを問いの起点とし、「孤独収集家」としてその種類や健康との関係性について検証中。他者の孤独を知ることが癒しにつながるかもしれないという仮説を基に「孤独図鑑」の完成・公表を目標に掲げます。
近藤小百合(デザイナー)[長野県出身→東京都在住]



02

【遊び×医療】
— 障害の有無をわけない、ともに成長できる遊び場ってなんだろう

「遊び」と「医療」の境界を取りはらう遊び場づくりを着想した玩具デザイナーに、場のエンパワーメントや自らの場づくりを目指すメンバーが合流。2021年春から福井市内の医療ケア施設でのプロジェクトをスタートさせます。
田嶋宏行(玩具デザイナー)[静岡県出身→福井県在住] 岡部春香(デザイナー)[北海道出身→東京都在住] 黒田悠生(樹脂成形メーカー商品開発)[福井県出身→東京都在住]



08

福井でアップデートされる「家」と「職場」

新幹線が延伸する福井に着目してXSCHOOLに参加。地理的な視点での興味関心から、人が集まる場のつくり方やつくられ方を問いの軸にし、福井の新たな寄りをメディアづくりで表現することを考えています。
兒玉真太郎(学生)[千葉県出身・在住]



03

医療・ケアを取り巻く課題に、
“現場に居ない人”はいかに取り組めるのか

「健康」に対する人々の視座の違いが生む違和感を問いの根底にもち、人々の老/病/死に対する姿勢(スタンス)を共有・交換できるプロダクト「おじくじ」を開発。おじくじツールはオープンデータで公開しています。
神野真実(リサーチャー)[東京都出身・在住]



09

診察室のコミュニケーションを考える

化学を他人に説明するのが難しいと感じる自身の経験を、専門性をもつ人とそうでない人の中にある伝えにくさ/伝わりにくさに置き換えて思考を展開。患者が「ありがたい姿」を伝えられるコミュニケーションツールを模索しました。
木村侑翔(日華化学株式会社)[福井県出身・在住]



04

医療者と患者をわけているもの
— 一本音をめぐる考察

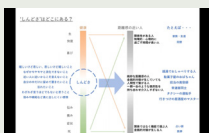
クリニックの広報担当として医療現場に関わってきた自身の体験から、医者と患者の「本音」を巡り大きな問いを投げかけます。
増永英尚(オレンジホームケアクリニック)[福井県出身・在住]



10

医療者と患者の本音トーク

子どもの在宅医療に興味関心を持ちながら探究をスタートし、医療現場における患者と医師のコミュニケーションギャップを問いの軸としていきました。プレゼンテーションでは医療現場の本音トークのシミュレーションを発表。
BIE Qian(学生)[中国山東省出身→石川県在住]



05

生きていのになぜ
「生きたい」と思うのか

— 日常にあるしんどさの表出

「生きたい」という気持ちの根源はどこにあるのか?という問いを立て、まちなかで他者の「しんどさ」を聞き取るインタビューなどにも取り組みながら、日常の中にある“しんどさ”の表出へアプローチしました。
木村希(設計事務所企画)[東京都出身→大阪府在住]



11

松川レピヤンが考える、
組織とわたしのほくし方

近年、人員面で急成長した社内を見渡しながら、見過ごされてきた課題について4人の社員がそれぞれのスタンスからリサーチや考察を展開。最終的に「teamレピヤンズ」として自社の将来像を問い続けることを表明しました。
松川享正、室野五月、山口貴也、内山華(以上、株式会社松川レピヤン)[福井県出身・在住]



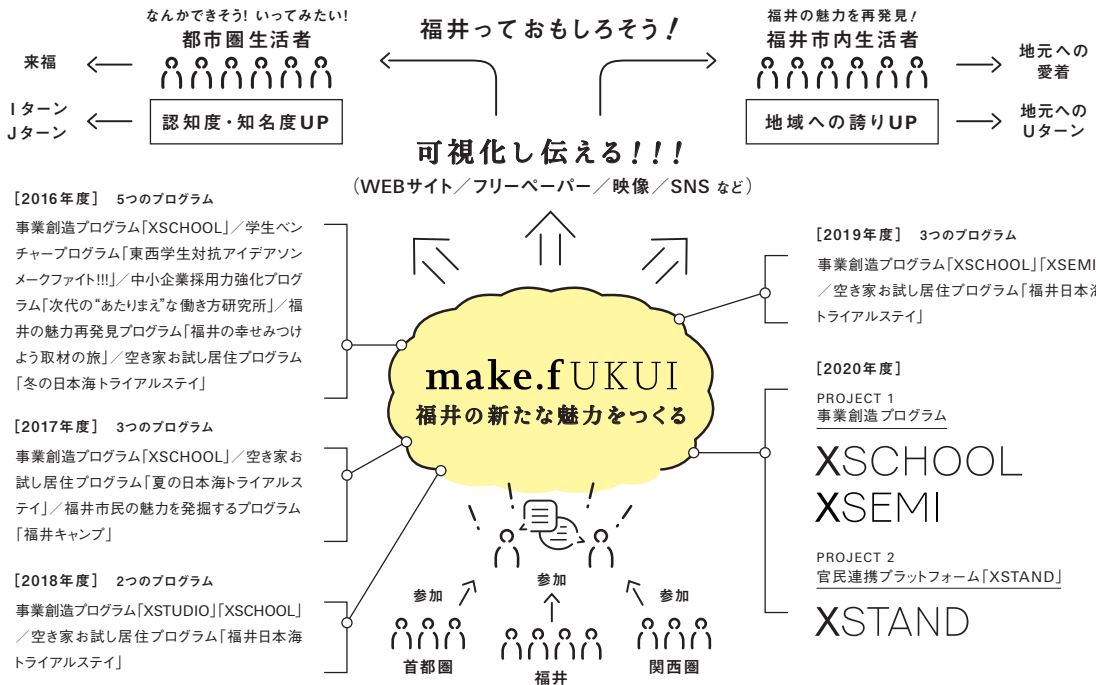
06

家族同士が病気について
話しやすくなるには?

家族の病気によつた出来事を起点に、家族間コミュニケーションの円滑化を求めて自身の家族と改めて向き合うことから出発。家族のエピソードと家系図をつないだ「新しい家系図」を使ったコミュニケーションを提案しています。
井上猛(webディレクター)[新潟県出身・在住]



すべてのプレゼンテーションを動画化し、XSCHOOL CONFERENCEの参加申込者に事前共有。オンライン上で広く賛同者やレビューを集めました。また①~④は当日にリアルプレゼンテーションを実施しました。



XSEMI

PROJECT 1



創造行為の根っこを 見つめなおす2日間の教室

次代につながる「広義のデザインの力」をともに考える教室・XSEMIをオンラインで開催。手を動かし、想いを共有するツール、チーム参加型など積極的に関われる仕組みも取り入れ、「わかるから、わからない 🤔 一個とパブリックのあいだを考える」をテーマに、分業化した仕事、公と私、医療や介護、自然環境など、わかることで本質が捉えづらくなる事柄を解きほぐす方法について、物事の境界、場所、時間軸を超えたりサーチ・実践を続けるゲストらとともに考えました。

実施期間：2020年11月7-8日 受講生：約60名(11/2事前イベント約70名)
スピーカー：磯野真穂(人類学者)、菅俊一(コグニティブデザイナー/表現研究者/映像作家)
/多摩美術大学美術学部統合デザイン学科専任講師、玉利康延(Designer / Art photographer)

XSTAND

PROJECT 2



プロジェクトの持続的運営を目指す、 官民連携プラットフォーム

事業創造プログラム・XSCHOOLをきっかけに生まれた、プロジェクトの持続的な支援や地元企業とのネットワーク化を図る地元福井在住メンバーを中心としたプラットフォームです。新聞社、プランナー、デザイナー、元・地域おこし協力隊など多様なメンバーが、プロジェクトを起点に福井を行き交う人たちのコミュニケーションの場を日常的につくる活動を行っています。2020年11月には、福井駅近くに拠点となるワークスペースもオープン。

実施期間：2021年3月17日に初の全体会合を実施
参加者：地元経営者、福井市、福井新聞社、運営メンバーら約16名

TOPIC 1 「みんなで図書館をつくろうプロジェクト」が私設図書館を設置！



2019年度 XSCHOOL メンバーとパートナー企業の株式会社増田喜が連携して生まれた本の循環プロジェクト。2020年11月の私設図書館設置以来、複数の地元メディアに取り上げられ、5千冊を超える市民からの本が集まっています。

TOPIC 2 全国に水仙の香りを！「ノカテ」が絶賛活動中！



これまでのプログラム参加者が集まり、昨年度のXSCHOOLで結成した「ノカテ」。福井県内で初めて国の重要文化的景観に登録された福井市越廼地区にて、新たな生業をつくろうと出荷規格外の越前水仙の販路拡大などに挑戦しています。

TOPIC 3 プロジェクトの拠点・XSTANDが福井駅前に完成！



福井新聞社が福井駅前の自社ビルを整備し、新たな拠点となるワークスペース・XSTANDを2020年11月に開設。プロジェクトをきっかけに福井で活動する人たちの一層の交流を促進します。設計は2018年度XSTUDIOメンバーが担当。

TOPIC 4 make.fUKUIの活動は、地元紙でも紹介されています！



これまでのプロジェクトの進捗や新たな活動は、「福井市の魅力をつくりだす試み」として、継続的に地元紙・福井新聞で掲載されているほか、域内外の多数のメディアでも紹介されています。

□ PROJECT 1 XSCHOOL

参加者：井上猛、内山華*、岡部春香、木村希、木村侑翔*、黒田悠生、兒玉真太郎、近藤小百合、神野真実、田嶋宏行、BIE Qian、増永英尚*、松川享正*、室野五月*、山岡宏輔、山口貴也* *はパートナー企業より参加
 パートナー企業：日華化学株式会社、株式会社松川レビヤン、オレンジホームケアクリニック アドバイザー：紅谷浩之(医師/オレンジホームケアクリニック代表)、磯野真穂(人類学者) プログラムディレクター：坂田守史(ディレクター・プランナー/株式会社デザインスタジオ・ピネン)、原田祐馬(デザイナー/UMA/design farm代表)、多田智美(編集者/MUESUM代表)、内田友紀(都市デザイナー/株式会社リ・パブリックシニアディレクター)、白井瞭(トランスローカルマガジン『MOMENT』編集長/株式会社リ・パブリックディレクター) カンファレンス・ゲストスピーカー&レビュアー：安宅研太郎(建築家/株式会社トラック代表)、紅谷浩之(医師/オレンジホームケアクリニック代表)、磯野真穂(人類学者) 撮影協力：白川雄太、明直樹 会場協力：CRAFT BRIDGE、XSTAND SPECIALTHANKS：向川恵、若杉紗英、西出真悟、唐川恵美子、オレンジキッズケアラボのみなさん、松田光夫、白川さとみ、伊藤泰信、高橋要、森一貴、達川竜司

XSEMI

スピーカー：磯野真穂(人類学者)、菅俊一(コグニティブデザイナー/表現研究者/映像作家/多摩美術大学美術学部統合デザイン学科専任講師)、玉利康延(Designer / Art photographer) プログラムディレクター：坂田守史(ディレクター・プランナー/株式会社デザインスタジオ・ピネン)、原田祐馬(デザイナー/UMA/design farm代表)、多田智美(編集者/MUESUM代表)、内田友紀(都市デザイナー/株式会社リ・パブリックシニアディレクター)、白井瞭(トランスローカルマガジン『MOMENT』編集長/株式会社リ・パブリックディレクター)

□ PROJECT 2 XSTAND

運営：坂田守史、高橋要、宮下浩一、井波尚大
 ワークスペース設計監理：高野麻実(ヒヤック) 施工：建大工房

□ MEDIA

クリエイティブディレクション：原田祐馬(UMA/design farm代表)
 エディトリアルディレクション：多田智美(MUESUM代表)

医療とわたしのほくし方 Liner Notes

企画・編集：白井瞭(トランスローカルマガジン『MOMENT』編集長/株式会社リ・パブリックディレクター)、多田智美(編集者/MUESUM代表)
 デザイン：西野亮介(UMA/design farm) イラスト：権田直博

PRESENTATION MOVIES ワケワカラジヨ

出演：XSCHOOL 参加者 進行管理：宮下浩一、井波尚大(福井新聞社)

make.fUKUI WEB

デザイン：中村文信(SEWI) コーディング：渡利祥太(ケアン)
 執筆：高橋要 進行管理：宮下浩一、井波尚大(福井新聞社)

□ STAFF

全体運営：株式会社福井新聞社 [林明美、宮下浩一、井波尚大]、株式会社デザインスタジオ・ピネン [坂田守史]

未来につなぐ ふくい魅える化プロジェクト

<http://makef.jp/>

事業名：福井とつながる対流拡大事業 主宰：福井市 協力：国立大学法人 福井大学 産学官連携本部、公立大学法人 福井県立大学 地域連携本部、株式会社福井銀行、株式会社福井新聞社 企画運営：株式会社福井新聞社、株式会社デザインスタジオ・ピネン